

いん ちよう
忌部町

神を祭った忌部氏の里

忌部は、また斎部（いつきべ）とも書きます。のちに藤原と名を変える中臣氏（なかとみし）と並んで、古代から神に仕える一族の忌部氏が住んでいたことから、この地名が生まれたようです。

忌部氏は、鏡や玉などの祭器を作り身を清め神を祭っていたとされ、一族の遠祖といわれる天太玉命（あまのふとたまのみこと）を祭る神社が、忌部町に鎮座していることから、このことが十分にうかがえます。

同神社東北約五〇〇メートルの、忌部町に隣接する曾我町石作の発掘調査（昭和五八年）で、玉を作る工具の砥石（といし）六〇個と滑石・へき玉・こはく・めのう・水晶などで作った玉類約三〇万個が発掘されました。

発掘調査をした県立橿原考古学研究所では当時、五世紀―六世紀前半にかけて「この一帯が大和政権直属の玉造り工房跡だった」と発表しました。

まことに古い忌部氏や忌部町の、いわれを裏付ける調査結果となっています。